

## 社會醫學及統計

### 國際結核豫防會章程

第一條 國際聯盟條約加入諸國ト北米合衆國トノ間ニ國際結核豫防會ヲ設ク

第二條 國際結核豫防會ノ目的ハ左ノ如シ

第一、開明諸國結核豫防會聯合會ノ設定及ヒ特ニ結核ニ關スル國際衛生機關トノ協約ノ締結

第二、結核ニ關スル會議及ヒ科學會議ノ設定

第三、結核問題及ヒ結核ニ關スル社會衛生問題ニ關スル法制ノ比較研究

第四、結核ニ關スル國際統計文書ノ蒐集

第五、各國間及ヒ各民族間結核ノ分布、蔓延豫防及ヒ治療ニ關スル科學上及ヒ社會上ノ調査

第六、科學上及ヒ社會上結核研究問題ニ關スル情報ノ蒐集及ヒ加入諸機關ニ對スル通報

第三條 國際結核豫防會ハ其事務所ヲ巴里ニ置ク國際結核豫防會ハ國際結核豫防會ノ議決ニ由リ二年又ハ三年毎ニ總會ヲ開ク

國際結核豫防會ハ其總會ニ於テ會長ヲ選任シ會長ハ次回總會ノ時ヨリ其職ニ就ク

會長ハ次回總會開設國所屬會員中ヨリ之ヲ選任シ其在任期間中總會及ヒ理事會議ヲ主宰ス

第四條 國際結核豫防會ハ評議員正會員及ヒ名譽會員ヲ以テ之ヲ組織ス

第一、評議員 評議員ハ國際聯盟加入國及ヒ北米合衆國所在結核豫防機關之ヲ指定シ其數一國二名ト爲シ人口一千萬以上ヲ有スル邦國ハ五百萬毎ニ補足評議員一名ヲ任命スルコトヲ得一國評議員ノ總數ハ五名ヲ超エ  
ルコトヲ得ス

中央結核豫防機關ノ設ナキ邦國ニ於テハ政府自ラ評議員ヲ指定ス

第二、正會員 正會員ハ各國結核豫防機關又ハ國際結核豫防會加入國政府ノ推薦ニ基キテ國際結核豫防會理事會之ヲ選任ス

第三、名譽會員 名譽會員ハ理事會ノ推薦ニ基キテ總會之ヲ選任ス

第四條追加 各國所屬殖民地モ亦皆其代表者ヲ國際結核豫防會理事會ニ簡派ス居代表方法ハ總テ執行委員會ノ提案ニ基キテ理事會之ヲ決定ス

第五條 國際結核豫防會ハ理事會之ヲ主管ス理事會ハ評議員若干名ヲ以テ之ヲ組織シ評議員支障アルトキハ正當ニ委任セル委員ヲ以テ之ニ代ラシムルコトヲ得

理事會ハ理事中ヨリ執行委員ヲ選任シ執行委員會ハ委員五名ヲ以テ之ヲ組織シ案件ノ進行提出及ヒ付託ヲ受ケ又ハ報告ヲ命セラレタル問題ヲ調査ス

執行委員會ハ國際結核豫防會事業發表ノ任ニ當リ毎年一回以上會議ヲ開ク  
理事會ハ總會ノ直前二年又ハ三年毎ニ一回以上會議ヲ開ク會長ハ隨時之ヲ召集スルコトヲ得

理事會ハ幹事長及ヒ會計主任ヲ任命ス

第六條 理事會ハ國際豫防會ノ事業遂行ニ適セリト認ムル措置ヲ總會ニ提案シ幹事長ハ會長ニ稟申シテ財政報告ヲ合メル年報ヲ理事會ニ提出ス理事會ハ豫算ヲ決定シテ決算ヲ承認シ次回總會ノ開設地及ヒ會期ヲ定ム

第七條 總會ニハ總テ評議員及ヒ正會員ヲ召集シ國際結核豫防會ノ事業ヲ報告セシメテ章程ノ改正案ヲ承認ス改正案ハ會員全部ニ通知後次回總會出席會員三分ノ二ノ多數ニ由ルニ非サレハ之ヲ可決スルコトヲ得ス

第八條 國際結核豫防會ノ經費ハ通常醸出金及ヒ爾餘公私賦金ヲ以テ之ヲ支辨ス

國際結核豫防會加入國ノ年賦金ハ理事一名ニ付四磅即チ金貨一百法及ヒ正會員一名ニ付一磅即チ金貨二十五法ト定ム

各國諸團體又ハ加入各國政府ハ國際結核豫防會ニ對スル年賦金ノ徵收及拂込ノ責ヲ負フ各國諸團體又ハ加入國政府ニシテ三年間其年賦金ヲ納付セサル者ハ之ヲ退會者ト看做ス

抄 録

外國文獻

結核専門外雜誌

○「ツベルクリン」ノ經口の應用

ニ就テ

Franziska Koster

(Klin. Wochenschr. 1926. Nr. 43.)

「ツベルクリン」ヲ經口のニ與フル時、效果アルモノナリヤ否ヤハ從來既ニ多數ノ學者ニヨリテ論争セラレタル所ナリヤガ著者ハ以前「ツベルクリン」ヲ使用シタルコト無キ多數ノ結核性小兒及大人ニ極メテ少量乃至甚ダ大量ノ「ツベルクリン」ヲ與ヘソノ效果ヲ檢シタルニ全ク無效ナリトノ結論ニ達セリ。

(坂口抄)

○Uhlenhuth 氏結核血清ノ作用

機轉ニ就テ

Hans Fernbach.

(Klin. Wochenschr. 1926. Nr. 43.)

近時 Uhlenhuth ハ無毒性生活牛型菌ヲ以テ所置セル牛ヨリ血清ヲ製出シ、(Zerny) 及 (Friedel) ハ之レヲ重症ナル結核小兒ニ使用シ好果ヲ得タリトノコトナレドモ、Uhlenhuth ハ動物試験ニ於テ何等豫防的及治療的效果無キコトヲ見タリ。著者ハU氏血清中ニハ少量ノ「ツベルクリン」アルコトヲ認メ、少量ノ「ツベルクリン」ト非特異性血清又ハ他ノ蛋白質トヲ毎日注射スル時ハ結核ニ對シ好影響ヲ與フルコトアル故、C及E兩氏ノ見タル效果ハ斯カル理由ニヨルモノナラント考フ。

(坂口抄)

○本邦人食物ノ榮養價ニ就テ

東京帝國大學教授 島 菌 順 次 郎 氏

(日新醫學第十五年第五號及第六號)

大正七年以來ノ研究ヲ綜括記述セラレタルモノナリ。動物ノ飼養試験並ビニ會社及看護婦寄宿舍監獄等ニ於ケル觀察ニヨリ、白米ニハ榮養上部分的缺乏アリテ此ヲ主食トスル時ハ他ノ食品ヲ以テ補給セザル可カラズ、日本ニ脚氣患者多キハ此主食物ニ「ヱキタミンB」ノ缺乏アル事ヲ示スモノナリ。半搗米ヲ主食トスル時ハ白米ノ場合ニ比シテ其榮養上ノ缺

之ヲ副食物ニヨリテ補充スル事容易ナリ、是レ半搗米ニ保  
有セラル、胚芽ガ「ウヰキタミンB」及其他ノ榮養價值多キ物  
質ニ富メル爲ナリ、然シテ半搗米ノ消化吸収ハ良好ニシテ  
白米ト大差無シ。

故ニ本邦人ノ主食トシテ半搗米ヲ攝取セシムル事ハ食餌改  
良ノ第一歩ナリ、然シテ半搗米ノ精白ハ其胚芽ヲ八〇%以  
上保有スル程度トナスヲ要ス。  
(春木抄)

### ○肺結核ニ於ケル血糖検査

P. Hecht.

(Klin. Wochenschr. 1925. Nr. 33. S. 1595.)

二〇例ノ肺結核患者ニツキ朝食前空腹時ノ血糖ヲ檢シタル  
ニ、日常含水炭素ニ富ミタル食餌ヲ攝取シ、且ツ三八度餘  
ノ熱ヲ有セルニモ關ハラズ、一例モ正常値ノ上界ニ達セル  
モノヲ見ザリキ、即チ一般ニ血糖値低シ (坂口抄)

### ○兩側腎臟結核ノ統計及治療

Willy Hofmann.

(Klin. Wochenschr. 1925. Nr. 30. S. 1466.)

一例ノ兩側腎臟結核患者ニ對シ手術ヲ行ヒタル實驗例ヲ述  
ベ該患者ハ結局死ノ轉歸ヲ取リシガ手術後一時病症著明ニ

輕快セルコトヲ報告シ、兩側ノ腎臟侵サレ全ク絶望ト思ハ  
ル、場合ニモ、一縷ノ望アルニ於テハ手術ヲ行フベキモノ  
ナリト唱フ (坂口抄)

### ○工業ノ隆盛ト結核死亡率

Georg Wolff.

(Klin. Wochenschr. 1925. Nr. 20.)

工業ノ盛ントナルニツレ結核患者ハ増加スト一般ニ稱セラ  
ルレドモ、著者が工業化ノ程度ヲ異ニセル歐洲諸國ノ結核  
死亡率ヲ比較セシニ、サツクセン及英國ノ工業地ニ於ケル  
結核患者死亡率ハバイエルン及奧國ノアルペン地方竝ビニ  
匈牙利ノ文化進マザル地方ニ比シテ小ナルヲ見タリ。之レ  
ハ工業ノ盛トナルト共ニ衛生ノ設備ガ良好トナリ、ソレニ  
ヨル好影響ノ方、工業ニヨル有害作用ヨリモ大ナルガ爲メ  
ナリ 此ノ事實ハ十九世紀ノ初メ以來工業ノ盛トナルニ從  
ヒテ全死亡率及結核死亡率ノ著明ニ降下セルコト、一致  
ス。 (坂口抄)

### ○結核問題ニ關スル近時ノ見解

Alexander Mahrberger.

(Klin. Wochenschr. 1925. Nr. 11. S. 568.)

肺結核ノ病型ニ關シ近時行ハレツ、アル事實ヲ綜說的ニ符述スルニ止マリ新シキコトハ無シ  
(坂口抄)

### ○「ツベルクリン」皮内反應ニ對

スル血清ノ影響

Rudolf Erci.

(Klin. Wochenschr. 1925. Nr. 10. S. 450)

患者ノ血清ト「ツベルクリン」トヲ混ジ皮内注射ヲ行フ時活動性肺結核患者ト非結核病者トニテソノ反應ヲ異ニスルヤ否ヤヲ檢シクルニ、規則正シキ差異ヲ認めザリキ。  
(坂口抄)

### ○肺結核ノ一新生物學的豫後決

定法

Eduard Hager.

(Klin. Wochenschr. 1925. Nr. 12. S. 892)

血球沈降速度トソノ他ノ血清學的反應即 Wassermann 氏結核反應 Malfy 及 Danany 氏ノ「グロブリン」沈降反應等ヲ併用シ結核病變ノ程度ソノ活動性ノ有無ヲ判定セントス。  
(坂口抄)

### ○徵毒ト結核

E. Liek.

(Klin. Wochenschr. 1925. Nr. 39.)

各一例ノ結核性潰瘍及淋巴腺結核ト思ハレタル患者ニツキ種々今日行ハレ居ル療法ヲ行ヒタルモ無效ナリシモノニ驅微療法ヲ行ヒタルニ忽チ治療セルコトヲ見タリ、斯カル例ハ決シテ少ナカラザル可シ。  
(坂口抄)

### ○死滅結核菌ニヨル結核豫防注射

Prof. H. Dold.

(Klin. Wochenschr. 1925. Nr. 37. 1763)

死滅結核菌ノ注射ニヨリ結核ニ對スル免疫ヲ獲得セシメ得ルヤ否ヤハ從來多數學者ニヨリ論争セラレタル所ニシテ今日ニ於テモ之レニ關シ異ナリタル意見ヲ發表スルモノアリ。著者ハ多數ノ「モルモット」ニ就キ實驗ヲ行ヒタルニ動物ニヨリ結核ニ對スル感受性ニ著明ナル差異アルヲ認め從來諸家ノ報告ニ差異アルハ一ツハ試驗動物ノ數少ナキガ爲メナラントナス。此ノ點ニ注意シ行ヒタル著者ノ實驗ニ於テハ死滅結核菌ヲ以テシテハ結核ニ對スル免疫ヲ動物ニ附

與シ得ザリキ。

(坂口抄)

## ○綿花粉塵ガ呼吸器ニ及ボス障 碍作用ニ就テ

Karl Schilling.

(Dent. Arch. f. kl. Med. Bd. 146.)

著者ハバーデンノ紡績工場ノ工女三百名ニ付キ綿花ノ粉塵ヲ吸入セル結果工女等ガ受クル呼吸器ノ障碍ヲ理學的及ビ「レントゲン」寫真ニヨリテ精査セルニ呼吸器上道ノ加答兒ヲ示スモノ及ビ稀ニ肺門部淋巴腺ノ腫脹ヲ來セルモノヲ見タルドモ肺臟ノ病的變化ヲ證明シ得タル例ハ殆ドナシ、即工女等ガ早朝工場出勤以前ニ於テハ肺臟ハ全面正常ナル肺胞音ヲ呈シ何等病的症狀ヲ呈セザルモノヲ選ミ夕刻其ノ歸來セル直後ノ所見ヲ徵スルニ肺門部、肺中葉及ビ下葉部ニハ綿花粉吸入ニ歸因スト考フベキ程度ノ粗雜音「ギーメン」等ヲ聞キ刺戟症狀強度ナルモノニアリテハ粘液ノ排泄昂進セルモノアレドモ肺粘膜ノ著シキ腫脹或ハ氣管枝又ハ氣管小枝ノ變化ニヨリテ起ル水泡音、捻髮音等ナク又呼吸困難ノ惹起セラル、モノナシ、然シテ此ノ如キ小變化ハ數時ニシテ消失スルヲ常トセリ。

抄 録

著者ハ是等ノ事實及ビ他ノ諸種ノ調査ニヨリテ斷定シテ曰ク「綿花ノ粉塵ヲ吸入スルモ塵肺的變化ヲ起スモノニアラズ、タダ單ニ急性及ビ慢性ノ氣管枝炎ニ對スル素因トナリ又肺氣腫ヲ早期ニ將來スル可能性アルヲ認ム、サレドモ他ノ炭粉金屬粉硝子粉等ノ吸入ニ於ケルト異リ綿花粉吸入ハ肺結核ニ罹患シ易キ素因ヲ作ルモノニ非ズ」ト。(高田重正抄)

## ○血清反應ニヨル結核診斷法ノ 臨牀上ノ價值

F. Klempner u. A. Salomon.

(Zeitschr. f. kl. Med. Bd. 101, S. 1.)

血清反應ヲ活動性結核ノ診斷ニ應用セントセル學者多キモ今日迄凝集反應沈降反應溷濁反應等總テ確實ナル成績ヲ示スモノナカリキ。

近來ワッセルマン及ビベスレドカハ夫々特有ノ抗體原ヲ用キテ結核ノ補體結合反應ヲ行ヒ之ヲ以テ活動性結核ノ診斷ノ具トナサントセル試ミアリ。

ワッセルマン (Munch. med. Wochenschr. 1922 Nr. 16 u. 1923 Nr. 5, Dent. Arch. f. kl. Med. 1922, Heft 3 u. 4) ノ使用セル抗體原ハ「テトラリン」ヲ以テ結核菌ノ類脂體ヲ抽出

シ之レヲ「レチチン」ニ加ヘタルモノニシテベスレドカ (An. de l'Instit. Pasteur 35, 1921)ノ抗體原ハ液狀ノ卵黃培養基ニ發育セシメタル結核菌ヲ前者ト等シク處置セルモノナリ。

著者等ガ原法ヲ遵守シテ追試セル結果ニヨレバ確實ナル結核患者ニ於テ補體結合反應ガ陽性ニ出現セルモノハワ氏ノ抗體原ニ於テハ七三・二%ベスレドカ氏ノ抗體原ヲ以テシテハ八九・五%ナリ、又活動性結核ヲ有セザル事確實ナル患者及ビ健者ノ血清ニ於テモ其二七%乃至四六・七%ハ補體結合反應陽性ナリ。

是等ノ結果ハワツセルマン、ベスレドカ、ザックス及クロツフストツク、ラビノウイツチ、カスニエフスキー及チリツク、ヤコブ及メツケル、シュロスベルゲル、ハルトホ等ノ實驗ト略符合セルモノニシテ此レニヨリテ見ルニ臨牀上最も必要ヲ感ジツ、アル「結核ノ疑ハシキ症例」ヲ鑑別スル爲ニハ是等ノ方法ハ應用シ得ベキモノニアラス。(高田重正抄)

○經口的ニ與ヘタル「ツベルクリン」及其他ノ蛋白質體ガ結核小兒ノ血液ノ水代謝ニ及ボス作用

Walter Porkeis.

(Zeitschr. f. kl. Med. Bd. 101)

著者ハサキニ「ツベルクリン」及ビ他ノ蛋白質體ヲ結核小兒ニ經皮的ニ與フル時ハ患者ノ病狀ニ從ヒテ是等蛋白質體ニ對スル小兒血液ノ一日中ノ水代謝ノ態度ノ異ルヲ知り之ヲ活動性ヲ有スル潜伏結核ノ診斷ニ應用セントセシガ更ニ經口的ニ與ヘタル「ツベルクリン」及ビ他ノ蛋白質體ニ對スル結核小兒血液ノ水代謝ノ態度ヲ知ラントシ、二歳乃至十四歳ノ結核性又ハ結核性ト思惟セラル、小兒十七人ヲ選ミ之ニ四人ノ健康小兒ヲ對照トシテ實驗セリ、用キタル「ツベルクリン」及ビ蛋白質體ハ「ダイイックケームフ」ノ「バルチゲン」<sup>1)</sup>「バルチゲンA」<sup>2)</sup>「バルチゲンF」<sup>3)</sup>「バルチゲンL」<sup>4)</sup>「バルチゲンN」<sup>5)</sup>「舊ツベルクリン」<sup>6)</sup>「眞珠腫ツベルクリン」<sup>7)</sup>「エドワクチン」<sup>8)</sup>「フォルチー」<sup>9)</sup>及ビ淋菌、葡萄狀球菌、大腸菌ノ「ワクチン」<sup>10)</sup>竝ニ純粹ナル「アオラン」ナリ。

此ノ試驗ノ結果蛋白質體ヲ含有セルスベテノ「ツベルクリン」

及ビ「バルチゲン」ハ經皮的ニ與ヘタル時ト同様ニ結核小兒ノ血液水代謝ニ影響ヲ及ボセドモ蛋白質體ヲ全ク含有セザル「バルチゲンF」及ビ「N」ハ影響ナシ又諸種細菌ノ「ワクチン」ハ影響ヲ及ボサズ「アオラン」モ亦影響ナシ。

是等ノ實驗ヲ考察シテ著者ハ結核小兒ノ血液ノ水代謝ニ影響ヲ有スルモノハ結核菌體ヨリ抽出セラレタル一種ノ特異的ノ蛋白質ナルベシ、サレドモ此ノ事實ハ目下尙學理的ノ對究範圍ニ屬スルヲ以テ追試ヲ要スルモノナリト結論セリ。

(高田重正抄)

### ○内臓結核症特ニ汎發性結核症 ノ場合ニ於ケル女性乳腺ノ干

與ニ就テ

Y. Nagashima.

(Virchows Archiv Bd. 254, 1925)

乳腺結核症ハ比較的稀ナルモノナリ。文獻上乳腺ニ來ル結核症ヲ次ノ三型ニ分チ得。

- 一、腫瘍型
- 二、寒性膿瘍(假性囊腫)
- 三、瘻管ヲ有スル硬變性或ハ乾酪性ノ汎發性或ハ腫瘍性

抄 録

ノモノ

而シテ是等結核症成立ニ關スル原因ヲ大別シテ

一、直接ソノ部位ノ創傷、或ハ乳腺排泄管ヨリスル淋巴道ニヨルモノ

二、乳腺、近接部位ノ結核症ヨリ續進シ來ルモノ

三、血道ヲ以テスルモノ

等アリ。而シテ乳腺結核症成立ニ對シ、年齢(春機發動期)、妊娠、乳授等ハ一定ノ素因ヲ與フルモノニシテ、著者ハ内臓結核症(主トシテ肺結核症)ニ於テ乳腺ガ如何ナル程度ニ於テ、結核性變化ヲ合併セルカラ各種ノ年齢ニ於ケル三十四例ノ女性死屍ニ就キノ乳腺ノ組織的檢査ヲ行ヒ、次ノ結論ヲ得タリ。

一、三十四例ノ結核症ノ乳腺ニ一例ダモ結核性變化ヲ合併セルモノヲ發見シ得ザリキ、即乳腺ニ來ル結核症成立ハ淋巴道或ハ血道ニセヨ甚ダ稀ナルモノナリ。

二、乳腺ノ組織標本ニ於テ一例モ結核菌ヲ證明シタルモノナシ。

三、殆ド全例ニ於テ、乳腺ノ炎性變化或ハ進行性或ハ退行性變化ヲ見タリ。

四、乳腺ニ來ル甚ダ慢性ノ炎性變化ヲ伴ヘル一例ニ於テ



異物性巨態細胞ヲ見タリ

尙是等死屍ノ一部ニ於テソノ乳腺ノ抽出液ヲ天竺鼠ニ注射セルニ一ツモ結核症ヲ惹起セザリキ。即、内臓結核症ノ場合、結核性變化ナキ乳腺ニ於テハ毒力ヲ有スル結核菌ヲ保有セルトハ思ハレズ。  
(清野抄)

### ○結節形成ニ際スル無顆粒白血球ノ態度

A. Matinow.

(J. Infectious Diseases Vol. 37, No. 5, 1925, P. 418)

著者ハ以前ニ組織培養ニ於テ結核菌ノ結節ノ形成ヲ研究セシガ更ニ集メラレシ流血中ノ白血球ト結核菌ヲ培養シテ以テ結節ノ形成ヲ研究ニ及ベリ。マキシモフ氏ハ淋巴球及單核細胞モ又組織球ト共ニ類表皮細胞ニ變化スルヲ得ト云フ。  
(今村抄)

### ○組織培養ニ於ケル結核感染ニ對スル肺臟組織ノ反應

F. J. Lang.

(J. Inf. Dis. Vol. 37, No. 5, 1925, p. 430)

表題ノ示ス如ク組織培養ニ於テ結節ノ形成ヲ研究セシガ著者ハ兔ノ幼若ナルモノ及成育セシモノ、肺臟ト兔ノ血漿ヲ以テ組織培養ヲナシ之ニ結核菌ヲ加ヘタリ。ラング氏ニヨレバ此培養法ニ於テ類表皮細胞ハ組織球ヨリ生ズルモノトナシ。フット氏ノ信ズル如キ毛細管ノ内皮細胞ヨリ類表皮細胞ノ生ズル事ヲ否定ス而シテ氣胞ノ表面細胞モ類表皮細胞ノ形成ニ參加スル事少キモノトス。  
(今村抄)

### ○組織培養ニ於ケル結核菌感染ノ反應問題

Prof. A. D. Timofejewsky und

Dr. S.W. Benewolensky.

(Virchows Archiv Bd. 255, 1925)

著者ハ兔ノ肺臟及ビ脾臟ノ組織培養ニ、六十度乃至八十度ニテ一時間加温滅毒セル人型結核菌ヲ加ヘテ、ソノ組織反應検査ヲ行ヒタリ。即肺臟及ビ脾臟培養ニ結核菌ヲ加ヘタルモノハ、ソノ菌毒ノ作用ニ依リテ對照ニ比シ、ソノ組織發育ヲ妨ゲラレ、且對照ニ比シ、速カニ組織ノ死滅ヲ來タス。

結核菌ノ陽性「ヘモタクシス」ニ依リ多數ノ游走細胞ヲ生ズ

コノモノハ肺臟ニ於テハ、主トシテ、肺臟上皮細胞、脾臟ニ於テハ網狀細胞ヨリ生ジ、結核菌ト盛ンニ争ヒ、遂ニ、コレヲ貪食シ、消化ス。纖維細胞ノ貪食作用ハ稀ニ認メラルノミ。結核菌ノ存在ハ肺臟上皮細胞及ビ脾臟網狀細胞ニ一定ノ刺戟ヲ與ヘ、是等細胞ノ増殖ヲ來タスモノニシテ、遂ニ結核菌ヲ包圍シ結節様ノ細胞集團ヲ作り、是等ノ像ハ組織培養ニ於テ二日ニテモ認メラル、モ、四日ニテ最モヨク認メラル。肺臟組織培養ニ於テハ屢々（脾臟組織培養ニテハ尙屢々）多核巨態細胞ヲ生ズ。コノモノハ游走細胞ノ集合セルモノ、或ハ原形質分離ヲセズシテ核分離ヲ來タシ、形成サルモノニシテ、ソノ内ニ常ニ結核菌ヲ含有セリ。結核菌ヲ包圍セル細胞集團ハ間モナク、ソノ中央部ヨリ壞疽ニ落入リ、六日乃至七日ニテ、全ク壞疽ヲ來タスモノナリ。是等結節様細胞集團ハ、吾人生體ニ來ル結核菌感染ニ依ル結節ト甚ダ類似セリ、結節ニ來ル、類上皮細胞ノ血道ヨリ來ルト云フ説ニハ吾人ノ試験ハ元ヨリ。問題外ナリ。吾人生體ノ肺臟ニ於ケル、類上皮細胞ハ、主トシテ結締織細胞ヨリシ稀ニ肺上皮細胞ヨリスルモノナルニ、吾人ノ培養試験ニテハコレガ反對ナル事實ヲ示セルハ注意スルニ價ス。

尙淋巴球及ビ「グラスロチーテン」等、血道ヲ以テ來ルモノハ培養試験ニテハ極ク少數ノミ存在スルハ元ヨリナリ。

（清野抄）